

http://ocw.kyoto-u.ac.jp/

美濃導彦, 土佐尚子 京都大学学術情報メディアセンター

OCW@KUの歴史

- 2004年 OCW@KUを検討し、学内委員会発足
- 2005年 OCW@KUのプロジェクト開始

著作権関連資料、OCW利用ガイドラインを作成

• 2006年 OCW国際会議を京都大学が主催 学内外に対してOCWシンポジウムを開催

OCW コンテンツマネージメントシステム:eduCommons,

Ploneプログラミング入門セミナーを開催

- 2007年学内限定OCW総長懇談会を開催
- 2008年 GOOGLEと提携し、YOUTUBE京大OCWチャンネルを公開
- 2009年学内認証をOCWシステムに接続

オープンコースウェア国際会議2006

- ・ 約400人の参加
- Opening Session: Introduction of OCW by MIT
- Panel Discussion of Japanese OCW
- (東大、京大、慶應、早稲田、北大、東工大、名 古屋大、阪大、九大)
- Panel Discussion of OCW by Europe, Asia, and United States

(MIT,Tufts University, Utah State University, Universia,OpenUniversity UK, ParisTech, China: CORE)

OCW@KUの現在

- ・ 毎月平均約8万アクセス
- 403映像コンテンツ(授業、GCOE, 教材、ゼミ)
- 京大主催の国際会議、公開授業も公開
- 英語授業を積極的に公開
- 教育の国際的な広報メディアという位置づけ
- OCWの2次利用の開始:

例:京大英語の授業でOCWの授業映像を用いる 通訳会社が、教材に、OCWの授業映像を用いる

現在のOCWの数の内訳

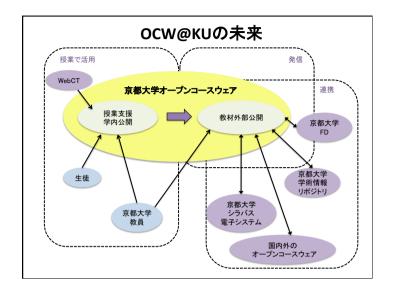
<動画コンテンツ内訳> 日本語授業映像 116 教材映像 40 日本語公開講義、国際会議 96

英語、フランス語講義映像(公開授業、国際会議) 116 英語、中国語、文学部GCOE 25 京都大学紹介、総長の式辞などの映像 10

<正規授業コンテンツ> 日本語講義数 123 講義アーカイブ 16

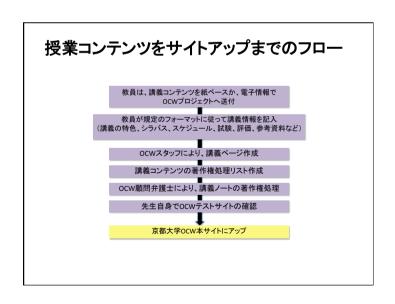
英語講義数 16 英語講義アーカイブ 1

参加教員数 150



教員がOCW@KUに参加する利点

- COE研究を積極的にアピール
- 京都大学OCW顧問弁護士による著作権処理
- よい学生をリクルート
- 国際的に授業をアピール
- ・ 教材を電子化
- ・ 学生に対する授業の予習・復習
- ・ 教材公開による教員へのフィードバック



著作権関連資料

- OCW@KU学内者向けガイドライン
- 利用許諾証書
- 利用許諾終了通知書
- 出版社への連絡
- 出版社や、掲載企業との協定書(案)
- 著作権参考資料
- 京大OCW ワークフロー
- 引用資料リスト
- チェックリスト
- ・ 洋書の出版物からの引用(エルゼビア)
- 学内の教員向けよくある質問

OCW@KU SYSTEM

- コンテンツマネージメントシステムを採用
- ・米国ユタ州立大学が開発したオープンソース eduCommonsを使用
- OCW コンテンツマネージメントシステム: eduCommons,Ploneプログラミング入門セミナーを開催
- ・2009年度中に、学内認証システムを用いて教員自身が教材を更新
- 動画サーバーにYouTubeを使用

YOUTUBE**OCW@KU**チャンネルを 動画サーバーとして用いる

















教材収集に関する努力

- 部局の教員会議・事務に告知
- 全学にOCWパンフレット、OCW募集を告知
- 教材作成費を至急
- OCWプロジェクトが、授業撮影・教材撮影・国際会議撮影・公開講座撮影・編集を行う
- OCWプロジェクトが企画を行う

例:京大名物教授のOCW

研究者の秘密がここに隠されている - 最終講義-

OCWシンポジウム:総長懇談会

京都大学名物教授のOCW



京都大学OCW 総長懇談会

- 1, 学内で、OCWを活用している教授に、リレー 式に5分ずつ事例紹介や意見を出してもらう
- 2, 上記を総長を始め理事、教員、教務・事務、 学生が聞き、ディスカッションを行う

学内への認知方法

- ・ 毎年新入生3000人にOCWパンフレットを配布
- ・ 定期的に京大学生新聞で取り上げてもらう
- ・ 定期的に広報やシンポジウムなどを行う
- ・定期的に京都大学メールマガジンに掲載
- 定期的にOCW活用教員に対してメールマガジンを発行
- ・ 学内の時計台記念館や博物館で行われる教育関連イベントでOCWパンフレットを配布

今後の課題

- ・ 学内への認知を上げる
- 学内の教員の身近な授業ツールにする
- ・ 学内の学生の授業選択・予習・復習ツールにする
- OCW英語サイトの充実
- ・ 学内の関連部署との連携(全学共通教育、FD, WEBCT,機関デポジトリ)
- 学内の関連サイトとの連携

参考

京都大学オープンコースウェア

- 1) http://ocw.kyoto-u.ac.jp/
 京都大学オープンコースウェアYouTube
- 2) http://www.youtube.com/user/KyoDaiOcw
 OCWコンテンツマネージメントシステム
- 3) http://educommons.com/downloads/ educommons/